

単純性血管腫について

病 名	病気の症状や対応について	難病の団体・HP
単純性血管腫	<p>◇ 症状</p> <p>・単純性血管腫はポートワイン血管腫とも呼ばれ、真皮の毛細血管の局所異常で、通常皮膚の膨隆を伴わず明瞭な境界線があり、均一の紅斑を呈する。色は明るいピンク色から濃い紫色までである。その血管腫の主病変が真皮のどこに位置するかで、浅在性、深在性、びまん型に分類される。発症は生下時よりみられ自然消退しないが、皮膚の厚さが加齢に伴って厚くなるため褪色する場合もある。しかし反対に色が濃くなったり、腫瘤を形成したりする場合もある。発生の頻度は、男性より女性に多く、好発部位は顔面と頸部だが、四肢にも比較的多く見られる。</p> <p>◇ 治療</p> <p>・単純性血管腫は日常診察上もっとも多くみられる先天性血管腫病変の1つで、顔面などの露出部に発生したものは整容上大きな問題となる。治療としては現在では色素レーザー治療が第一選択となっている。レーザー照射時の痛みは、成人や照射時間を数分に限れば小児でも無麻酔治療が可能だが、通常7%リドカイン軟膏による局所麻酔下に行う。大きな血管腫面積を持つ乳幼児、病変が眼瞼部の近くにある場合には、照射の確実性や安全性、治療時間や期間の短縮が得られるため、全身麻酔下での治療を行う。レーザー照射部位は、照射直後には灰青色を呈するが、24時間後には黒色となる。この状態は約1週間続きますが、その後暗赤色となる。1週間以内に上皮化する。照射後2週目より血管腫の赤色調が徐々に消退を始め、この変化は照射後1～2カ月目まで継続する。レーザー治療後約1週間は、抗生剤含有ワセリン基剤軟膏を塗布し、ガーゼで被覆する。レーザー治療以外の方法では、冷凍療法、電気凝固法、放射線療法などがありますが副作用が伴うことが多く現在は行われていない。</p>	<p>日本形成外科学会 http://www.jsprs.or.jp/</p>